



最後の南島原市中総体終了！

感謝・マナー・勝負

いよいよ幕を閉じる南島原市内中学校の部活動。最後の南島原市中総体が、6月6日（土）のソフトテニス競技（団体戦）を皮切りに、14日（日）まで行われました。各会場は、この日にかかる選手たちの思いであふれ、最後まで熱戦が繰り広げられました。

3年生にとってはこれまでの部活動の集大成となる大会であり、1・2年生にとっても南有馬中学校の代表として参加できる最後の大会という、大きな意味をもつ大会でした。

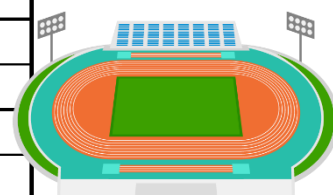
球技・武道

競技種目	組合せ・対戦相手・対戦結果等								結果
バスケットボール	リンクリーグ①	南有馬	●	29	—	59	○	加津佐	
	リンクリーグ②	南有馬	●	15	—	96	○	深 江	
ソフトテニス男子	個人戦								2回戦惜敗
ソフトテニス女子	リーグ戦①	南有馬	●	1	—	2	○	西有家	優勝
	リーグ戦②		○	2	—	1	●	有 家	
	リーグ戦③		○	2	—	1	●	深 江	
	リーグ戦④		○	2	—	1	●	布 津	
	個人戦								優勝
剣道	男子個人戦								3位
									2回戦惜敗
									優勝

陸上（3位まで）

種 目			順位	氏 名	学年	記 録
男子	1 年	1500m	2位		1	5' 25"11
			3位		1	5' 27"25
	2 年	1500m	1位		2	4' 36"08
			3位		2	4' 41"89
	3 年	1500m	2位		3	4' 42"50
	共通	400m	2位		2	1' 01"70
		800m	3位		3	2' 16"29
		3000m	2位		3	10' 26"89
		砲丸投	1位		3	11m60
	女子	2 年	100m		3位	2
800m			1位	2	2' 32"68	
3 年		100m	1位	3	14"37	
共通		200m	2位	2	29"37	
		1500m	1位	2	5' 13"21	

県中総体（7/25～7/27）への出場権を手にした選手の皆さん、活躍を期待しています！



最後まであきらめず全力で戦う姿には南中生としての誇りが感じられ、とても美しかったです。選手一人一人の『一生懸命』に大きな感動をもらいました。バスケット会場で聞いた保護者の方の、「先生、部活動がなくなるの、寂しいです」という言葉が忘れられません（私も同感です）。最後まで選手と一緒に戦ってくださった保護者・外部指導者の皆様、心から感謝申し上げます。

長崎っ子の心を見つめる教育週間

「心」と「命」をみつめよう

6月29日(月)から1週間、「長崎っ子の心を見つめる教育週間」でした。この教育週間が始まったきっかけは、20年以上前に起こった非常に痛ましい事件でした。あの時の衝撃や教師としての無力感は今でも忘れられません。一人一人の子どもたちに、命の重みや大切さを分かってほしい、思いやりの心に満ちた本当の優しさを考えてほしいという願いを胸に、私たちは日々子どもの心向き合っています。

初日の全校朝会では、「命」という漢字の成り立ちから、誰一人として意味なく生まれてきたわけではないこと、代わりとなる人は誰一人いないこと、それだけあなたという存在はかけがえのないものであることを伝えました。そして、次の3点を意識して学校生活を送るよう話しました。

1 言葉を選ぶこと

自分が発する言葉が、相手を温かくするものか、傷つけるものなのか、口に出す前に1秒でもいいから考える。

2 相手の「心」の声を聴くこと

周りの仲間の様子に目を向ける。小さな変化(=心の声)に気づくことが誰かの大きな支えになる。

3 苦しいときは「助けて」と言うこと

「助けて」ということは恥ずかしいことではない。それが言える人は、自分の心と命を守る強い人である。

「命」の成り立ちって？



「天からの大切なメッセージを、人がひざまずいて、両手でしっかりと受け取っている姿」を表している。

「ことばを育てることは 心を育てることである 人を育てることである」(大村はま氏)
「自分のことば」に責任をもてる人、周りの人を言葉で支えられる人になってほしいと思います。



点数より大切なこと

- 7/7(火) いのちの学習(3年)
- 7/8(水) 救急法講習会(2年)
- 7/10(金) 租税教室(3年)
- 7/14(火) 全校自治部会
- 7/15(水) 生徒集会
- 7/16(木) 大掃除
- 7/17(金) 終業式



県中総体激励式・吹奏楽部演奏

- 7/22(水)~7/31(金) 二者面談(1・2年)
- 三者面談(3年)

*学年で期日が異なります

- 7/25(土)~27(月) 県中総体
- 7/28(火) 社会を明るくする運動中学生弁論大会

7月は「長崎県ココロねっこ運動強調月間」

先日、第1回定期テストを行いました。点数だけに目が向きがちですが、「テストの点数=成績(通知表の評定)」ではありません。最近、定期テストの回数を減らす学校が増えているのは、テストの結果だけでなく、日々の授業での「学びのプロセス(レポート作成、話し合い活動、作品制作等)」をより重視するという考え方からです。

テストは、これまでの理解度を確かめる「健康診断」のようなものです。だから、その診断表をみながら、「どこが間違っていたのか」「どんな工夫をすればよいのか」を考えることが非常に重要です。自分自身の現状に気づき、必要なことを考え、次の学びへの一歩を踏み出すためにテストはあると捉えてほしいと思います。

これからの社会を生きる子どもたちに求められている力は「課題に粘り強く取り組む力」と「自分で学びをコントロールする力」です。点数だけではなく、今回のテストに向かう過程について、親子で振り返ってみてください。